

年頭所感

令和五年の新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

私たちは今、新型コロナウイルス感染症の流行、ロシアのウクライナ侵攻をきっかけとした食料や資源エネルギーの高騰など、加速度的に変化する社会環境の中にあります。

そして社会は、「持続可能な開発目標（SDGs）」への対応、「カーボンニュートラル実現（脱炭素社会）」が強く意識される時代になりました。

このような中、私たち建築設計界も地球温暖化対策及び省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの活用、建築物の木造・木質化の推進、デジタル技術を活用した業務手法の進化、求められる働き方改革への対応など、社会環境の変化や社会的ニーズに即した対応を着実に進めて行かねばならない時を迎えております。

本年、当組合では建築物の木造・木質化の研究、ZEB化（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）の推進、3Dデータ（BIM）の活用を前提とするDX（デジタルトランスフォーメーション）の流に沿った未来の設計環境の探求など、時代のニーズに即した研修を展開してまいります。

そして、プロジェクトの初期段階から一貫したPM（プロジェクトマネジメント）を提供できる体制を整え、発注者支援に資する業務展開を行ってまいります。

結びに、皆様方のご健康と益々のご活躍をご祈念申し上げ、また当組合の事業への更なるご支援とご鞭撻をお願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

令和五年一月

福島県建築設計協同組合
代表理事 鈴木宏幸